

要求実現の力をもつ
労働組合をめざし
全国で組織建設と
拡大をすすめよう!



発行所
JMITU
(日本金属製造情報通信労働組合)
〒114-0023 東京都北区滝野川
3-3-1 ユニオンコーポ3階
電話 (03) 5961-5601~2
FAX (03) 5961-5603
※組織外、無断転載禁止

年末一時金 組合員平均 60万1000円(2.17カ月)

経済情勢厳しいなか、「ふんばった」結果



超低額回答に抗議し、2時間スト・残業拒否に突入 (10日 東京西部・超音波工業支部)

JMITUの年末一時金闘争は、回答指定日の11月9日以降、あらたに62支部分会が回答を引き出し、25支部分会が2次、3次の回答を引きだしています。

21日現在、140支部分会の支部平均は58万7010円(2.00カ月)、組合員平均で60万1987円(2.20カ月)。支部平均で3万円余、組合員平均で7500円上回っています。経済情勢が厳しくなっているなか、「ふんばった」結果が出ています。

年末一時金闘争は後半戦。JMITUは、消費税増税や生鮮食品の物価高騰が生活を直撃するなか、一時金は生活給そのものとして練り上げた要求にこだわり、産別団交や職場要請行動などにとりくみ、経営者に対し「労働者の生活に責任がある」ことを迫り、要求の前進をめざします。

回答指定日翌日の10日には、超低額回答にたいし超音波工業支部(東京西部)が、一時金と正社員化要求で三和機材支部(千葉)がストライキに突入。大阪地本などが決起集会を開きました。

16年末一時金主な回答 11月18日現在

春は春闘、夏は夏季闘争時に妥結、回答。○中数字は回答回数。単位=円、右数字は月数

川本製作所(愛知)	②	1,142,400	3.79
レオン自動機(栃木)	①	1,011,954	3.20
日本電子(東京西部)	春	1,010,513	2.82
ユニオン光学(東京北部)	①	990,000	3.00
村松フルーツ(埼玉)	夏	960,000	2.69
カシフジ(京滋)	③	860,000 + α	3.35
田中科学(東京東部)	①	908,750	2.50
関西エンジニア(兵庫)	②	871,818	2.29
三和テッキ(栃木)	春	821,000	2.83
リオン(東京西部)	①	850,000	2.74
日本IBM(東京南部)	①	848,404	1.95
リガク(東京西部)	①	800,000	2.87
東京セキスイ(埼玉)	②	787,000	2.37
小坂研究所(東京東部)	③	780,000	2.87
日立建機ティエラ(大阪)	春	775,500	2.90

「職場の強い期待に応えよう」 決起集会で決意 大阪地本

秋年末闘争から17春闘へ、組織力強化を—生熊委員長が訴え

11月10日(木)大阪地本では16秋季年末闘争勝利学習決起集会を国労大阪会館で開きました。通信本部大阪支部の仲間を含め11支部から90人以上が参加。会場に入りきれないほどでした。難波執行委員長は「昨年と比べ年末一時金要求額は5万円上回る。組合員の切実な思い、期待の表れ。これを職場世論にして奮闘したい。団結を築く原点は『職場の期待に応える』こと。そのためにも日常活動の強化・学習活動の定着を」とあいさつ。大阪労連・川辺議長、通信産業本部大阪支部・長元委員長が連帯あいさつしました。



ミニ学習では生熊中央執行委員長(写真上)が、私たちを取り巻く情勢、秋季・年末闘争から17春闘をどうたたかうかについて講演。アメリカ大統領選挙の結果や長時間労働が話題となっている「電通」の話をおりませながら、労働組合のあり方について話しました。

また組織拡大の面では、長野地本・丸子警報器支部の例をもとに、組織拡大は要求実現に直結すること、『学習の友』による学習活動を強化し組織を強くする重要性について強調しました。

11支部・分会が決意表明。青年の発言が多く、元気いっぱいでした。とりわけ新加入の2人の青年といっしょに登壇した田辺鉄工所支部の奮闘に、みんなが元気をもらいました。(大阪・久松通信員)



11・4 JAL 争議支援デモ (品川)

JALの仲間支援 700人がデモ

11月4日、解雇撤回をたたかうJALの仲間を支援するデモと本社前(品川区)での抗議集会がおこ

なわれ、700人が参加しました。

生熊委員長、通信産業本部岩崎顧問をはじめとするJMITU組合員のみなさんといっしょに「職場にもどせ」「不当労働行為を認めろ」と元気にシュプレヒコールをしました。

集会後は東京のうたごえの仲間(約130人)とともに「がんばろう」「翼よ、高く輝け」「人間の歌」を「あの空に帰れるように!」と願い力いっぱい歌いました。(JMITU通信本部・神奈川分会 藤田美江)

「JMITU」(メールニュース版)は、毎月25日付での発行です。通常号とともに職場のたたかいや経験を、随時発信していきます。支部執行委員はじめ、職場のみなさんに届けてください。